

# 都中P通信

No.45発行

平成28年2月

東京都立中学校PTA協議会

会長 岩田 暁

## 平成27年度 東京都中学校PTAリーダー研修会 報告

開催日 平成27年12月6日(日)

会場 八王子市北野市民センター

今や、私たちの生活に欠かせないものとなっているインターネット。インターネット環境が日々進化する一方で、ネット依存が大きな問題となっています。平成27年度東京都中学校PTAリーダー研修会では、ネット依存治療の第一人者である(独)国立病院機構 久里浜医療センター院長の樋口進先生を講師に迎え、ネット依存の現状から対応までを学びました。参加者は来賓を含め92名でした。



### ネットの依存の現状

2013年の調査から、ネット依存の現状を見ると、わが国成人約420万人にネット依存傾向が認められました。一方、外来を受診する依存患者の半数は中・高生で、大学生まで入れると全体の70~80%にもなります。最近では更に低年齢化の傾向にあるとのこと。

### ネット依存の症状と発生してくる問題

ネット使用中にやめるように声をかけたり、取り上げると暴力的になる。ゲームをしている時はハイテンション状態が続き、エネルギーを消費しているので、ゲームを終えた時には何もできなくなってしまう。生活は昼夜逆転することが多いので、遅刻・欠席、授業中の居眠りが多くなり、成績が下がる。その結果、学校に行かなくなり、ひきこもる。風呂にも入らず、食事もうろくに摂らない。酷くなるとペットボトルを部屋に持ち込み、トイレ代わりにするケースもあるそうです。

### ネット依存にさせないために

家庭・学校ができる予防策として、ネットを始める際に、使用に関するルールを家族と本人で考え話し合うことが大切です。一方的に押し付けるのは長続きしません。依存の特性から、ネットを全く使わない時間を作ることが重要で、人との直接的なコミュニケーションやネット以外の活動を増やすこと。両親と一緒に活動したり、同じ経験をすることが大切です。

### ネット依存になってしまった時の対応策

早期発見・対応が大切!! 家庭や学校の生活に問題はないか、精神的に問題はないか、ADHD傾向や発達障害はないか、など背後にある要因を探り、治療を進めていきます。ゲーム以外のことに目を向けてもらうのが肝心で、それがネット依存から抜け出す転機になっていくようです。久里浜医療センターを受診した若者を対象にSelf-Discovery Campを実施しています。キャンプの中で、全員で富士山に登り、ポーズをとっている写真の姿が印象的でした。

### 参加者の感想

「タイムリーでよかった。映像や具体例を交えながらの講演だったのでわかり易く、勉強になった。」「親として、どうすればよいのか考えることができた。」「日頃からの対話の大切さがわかった。」等のネット依存を身近にとらえている感想が多くあった他、「今後も増えていくと思うので、医療体制を整えてほしい。」等、今後を心配する感想や、今後の医療へ要望もあります。



現状をみつめて

## 『第38回全国特別支援教育振興協議会』

平成27年12月4日(金) 国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催され、都中Pより西崎理事(港区)が代表として提言の発表を行いました。その内容が平成28年1月11日の教育新聞に掲載されましたので、ご紹介します。



### 「共生社会の実現に向けて活動」

私たちPTAは、さまざまな個性を持った生徒が日々安心して楽しく学校生活を送れることを願い活動している。目指している理想像は「今日が楽しく明日が待ち遠しくなる学校」だ。子どもたちにとって今日が楽しくて、明日が待ち遠しくなるような理想の学校とは、どのような学校なのか。

東京都港区立中学校PTA連合会で、中学生100人にインタビューを実施した。当初、我々が予想していた彼らの回答は、整備されたグラウンド、冷暖房等の設備であったが、それを挙げる生徒は少数であった。

どんなことでも話せる友だちがいる、信頼できる仲間がいる、絆の強いクラスなど友だちやクラスメートの存在を挙げる生徒が圧倒的に多かった。

次に挙げられたのは先生だ。情熱を持って接してくれる先生の存在といった声が多数あった。このインタビューから導き出されたのは、子どもたちが求めているのは、設備などのハードでなく、良好な人間関係だった。

子どもたちにとって魅力的な学校に必要な要素は「ハードよりハート」。これが結論である。

多くの生徒が在籍する学校で豊かな人間関係を形成するには、他と違う面を駄目と否定するのではなくこれからの日本に必要な「多様な個性」として積極的に認め、受け入れ、その力を最大限に伸ばす価値観とその価値観に基づく活動が必要であると考えます。

この考えをベースに、PTA活動で大切にすべきことは何か。ポイントは3つある。

1点目は多様性への理解である。当協議会では昨年2月15日に、(一社)東京都小学校PTA協議会とで組織する東京ブロックPTA協議会の主管として「日本PTA東京ブロック研究大会みんな違ってみんないい～発達障害の理解と支援」を実施した。

参加者から大きな反響があった。アンケートの感想欄には「もっと多くの人に知ってほしい」「違うことは素晴らしいと分かった。地域で輪になって子どもたちを育み、自分たちも生き活きと過ごして行きたいと思う」などの文章がつけられていた。

障害について理解を深めるために、講演会や勉強会を実施したり、障害を持つ人との積極的な交流を通して互いを理解し学んだりするのが大切であると考えます。

またPTA活動を通して人間理解が深まり、障害者支援などを始める保護者もいる。まさしくPTAが支援の人材の源にもなっているともいえる。

2点目は他者との連携である。1つのPTA団体でできないことも、学校や地域、他のPTA団体との連携によってより大きなことが実現すると考えている。

「あなたができないことを私がやり、私ができないことをあなたがやる。一緒に取り組めば私たちは偉業を成し遂げられる」。マザー・テレサが残したこの言葉の精神で子どもたちのため、互いの考えや立場を超えて連携すべきである。

多摩市や港区では公立小学校PTA、公立中学校PTA、都立特別支援学校PTAが地域とも連携して活動している。

また八王子市では教員と支援員が合同の特別支援教育の研修を行い、大きな成果を出している。これは連携の力を使っている事例といえる。

3点目は自らが模範となることだ。PTAはボランティア活動である。活動によって得られるものは金銭的な報酬ではなく、社会貢献する喜びである。誰かの役に立っている喜びは、人が感じる喜びの中で最上位のものだと思う。

私たち大人が子どもたちの幸せを願って連携し共働し楽しくPTA活動している背中をみせることこそが、「社会は温かく未来は明るい」と子どもたちに希望を与え、勇気と生きる力を大きく育むことにつながるのではなかろうか。

こうした理解・連携・模範の精神を基盤として、子どもたちのため、共生社会の実現に寄与し続けるPTAでありたいと切に願っている。

東京都公立中学校PTA協議会 総務理事 西崎伸彦



### 【都中P推奨】全国学生保険保障援助会の学生総合保険

お子様のケガやご家族の賠償事故を24時間保障する制度です。

「疾病補償プラン」と「ケガ充実補償プラン」を用意しています。

扶養者が事故により亡くなられた際には育英費用のお支払いもあり、在学中に必要な補償を総合的にカバーする設計となっています。

昨今話題の自転車に乗っている際に、歩行者の第三者をケガさせた場合の補償も本保険にセットされています。



特典 学校生活安心ダイヤル他

連絡先:  東京都公立中学校PTA協議会 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里1-5-2(株)ハセベ3F  
TEL 03-6806-6736 FAX 03-6806-6738e-mail: [jpta@tokyo-jpta.org](mailto:jpta@tokyo-jpta.org) 事務局 加納